

ヤングケアラー実態調査（高校生世代）の結果について

区におけるヤングケアラーへの支援強化に向け、必要な支援策を構築するため、ヤングケアラー当事者だった方の助言を踏まえた実態調査を実施しました。今般その結果がまとまりましたので、概要について報告します。

1 調査の対象及び方法

- 調査対象 区内在住の高校2、3年生世代（平成18年4月2日～平成20年4月1日生まれ）（7,723人）
- 調査期間 令和6年7月22日～8月14日
- 調査方法 調査依頼を郵送し、Web回答
- 回収数・回答率 1,405人（18.2%）

2 通学している人の内訳

- 高校生：98.8%
内訳：1年生：0.7%、2年生：52.1%、3年生：47.3%
※端数処理により合計値は100%とまらない
- 答えたくない・その他：1.2%

3 調査結果の概要

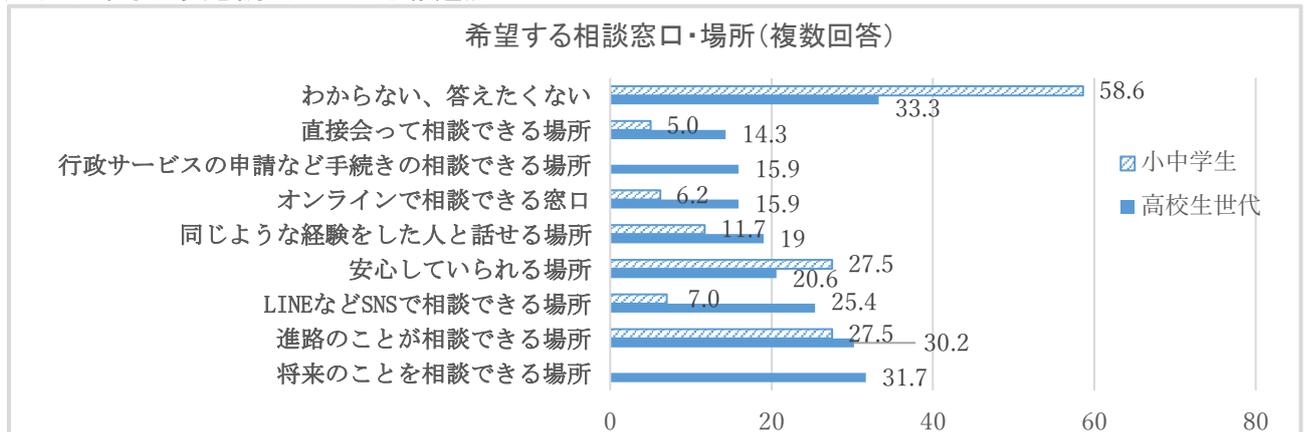
（1）ヤングケアラーの認知度

- 「ヤングケアラー」という言葉を今まで聞いたことがあるか
「聞いたことがあり、内容も知っている」70.7% 「聞いたことはあるが、よく知らない」14.5%
「聞いたことはない」14.8%

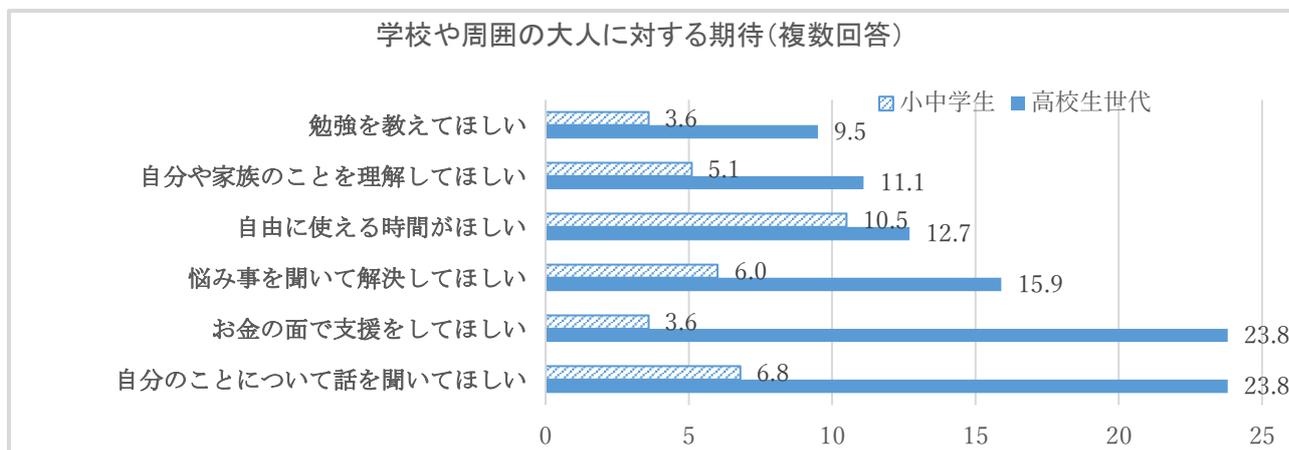
（2）お世話をしている家族

- 家族の中にお世話をしている人がいる
いると回答した人 63人（4.5%）
- お世話をしている家族
「きょうだい」46.0% 「お母さん」22.2% 「おばあさん」19.0% 「お父さん」11.1%
- お世話をすることによる進路への影響について
「影響を受けていない」71.4%
「進学先は自宅から通えるところを選択しようと考えている、またはすでにそうした」6.3%
「進学や就職をあきらめ、お世話を専念しようと考えている、またはすでにそうした」1.6%
- お世話に関する相談相手（複数回答）
「お父さん、お母さん」36.5% 「友達」23.8% 「祖父母」9.5% 「きょうだい」9.5%
「病院・医療福祉サービスの人」6.3% 「学校の先生（保健室の先生以外）」4.8%
「誰にも相談したことがない」23.8%

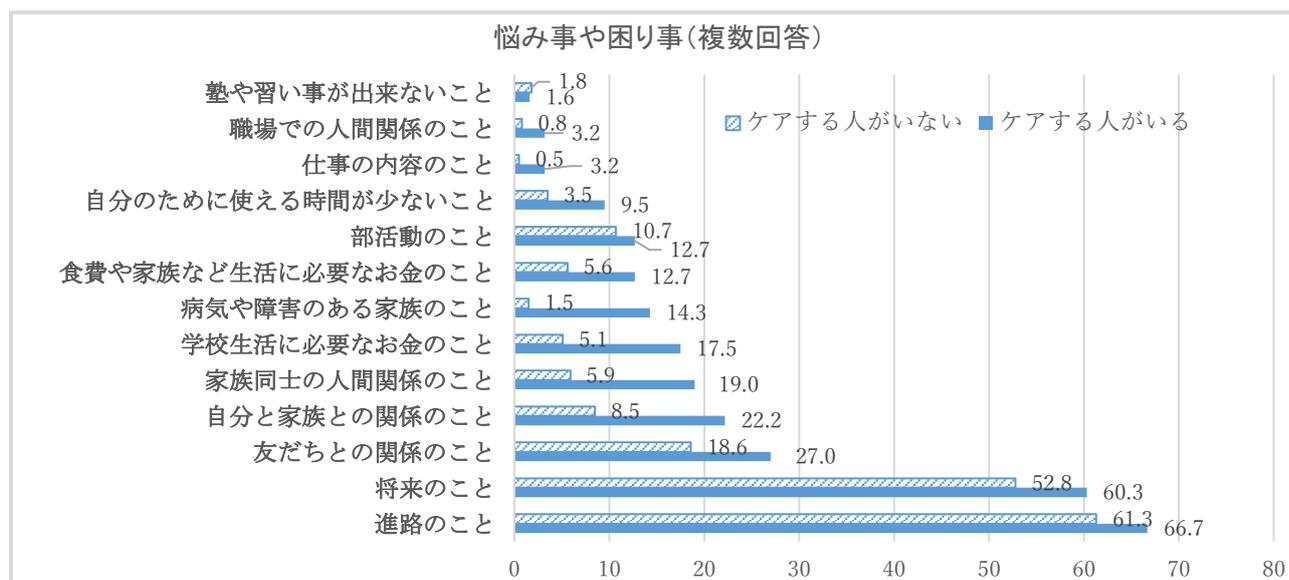
（3）小中学生実態調査との主な相違点



※「行政サービスの申請など手続きの相談ができる場所」「将来のことを相談ができる場所」は高校生世代のみの選択肢である。



(4) お世話をしている家族がいる人といない人の相違点



4 調査結果から確認できた主な内容

(1) 相談相手

「父母」、「友達」を選択している割合が高いが、「保健室の先生」や「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー」などを選択した人は0人と、相談先が小中学生より少ない。

(2) 希望する相談窓口・場所

「LINE など SNS で相談できる場所」「オンラインで相談できる場所」とともに、「直接会って相談できる場所」「同じような経験をした人と話せる場所」など、対面で相談することが想定される場所も小中学生に比べて多く選択されている。

(3) 悩み事や困り事

お世話をしている家族がいる人とそうでない場合で差が大きいのは、「自分と家族関係のこと (差は 13.7 ポイント)」「家族同士の人間関係のこと (同 13.2 ポイント)」「病気や障害のある家族のこと (同 12.8 ポイント)」「学校生活に必要なお金のこと (同 12.4 ポイント)」など、家族間の人間関係や生活費の面である。

5 高校生世代の実態調査を踏まえた来年度に向けた取組

調査結果を踏まえ、この間の支援に加えて、令和7年度以降に次のことに取り組む。

- (1) ヤングケアラーが地域で孤立することがないように、今年度実施した LINE 相談実証実験の結果も踏まえ、必要なサービスにつなげることができる相談先の確保を進めていく。
- (2) 同じような経験をしたヤングケアラーが集まり、悩みや不安を話すことができる、対面又はオンラインで参加できるハイブリッド型サロンの開催を検討する。
- (3) 家族間の人間関係や生活費の悩み事や困り事は、18歳以降も続くと考えられるため、継続性のある相談支援体制についてヤングケアラーPTを組織する関係各課を中心に検討する。